

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	専門演習 I		
担当者(Instructors)	白井 克尚	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

この授業では、優れた教育実践や保育実践について、具体的な事例の検討を通して、分析力や開発力を高めることをめざしている。なお、オンデマンド授業時の質問等の受付については、授業内に指示する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	グループによる教材開発や、それを用いた実践のシミュレーションを行う。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	授業のオリエンテーションー優れた教育実践・保育実践とはー	教材開発をどのように進めるかについて知らせ、グループ編成を行う。	<input type="checkbox"/>
第2回	優れた教育実践の事例	すぐれた教育実践の事例について検討する。	<input type="checkbox"/>
第3回	優れた保育実践の事例	すぐれた保育実践の事例について検討する。	<input type="checkbox"/>
第4回	教材テーマの考察	何を教えるかを選択し、教材テーマに関する資料収集を行う。	<input type="checkbox"/>
第5回	教材テーマの仮決定と開発・計画・立案	各グループで、教材テーマに関連する施設・機関との連絡・調整をはかる。	<input type="checkbox"/>
第6回	実践における評価の観点	実践における評価の観点について検討し、何を学ばせるかを明確にする。	<input type="checkbox"/>
第7回	実践における評価の観点	各グループ単位で、教材テーマに関連する施設・機関と連携しながら計画を進める。	<input type="checkbox"/>
第8回	中間報告会	グループ単位で、教材開発の現状を報告する。	<input type="checkbox"/>
第9回	実践の意義について確認する	まとめとして、教材集・プレゼンテーションを作る。	<input type="checkbox"/>
第10回	教材集を作る	教材集を作成する。	<input type="checkbox"/>
第11回	実践プレゼンテーションの計画を立てる	実践プレゼンテーションの計画を立てる。	<input type="checkbox"/>
第12回	プレゼンテーション(発表会)の最終準備・グループ原稿(レポート)完成	各グループで、プレゼンテーションの最終準備とグループ原稿(レポート)を完成させる。	<input type="checkbox"/>
第13回	発表会(プレゼンテーション)Aグループ	Aグループのプレゼンテーションを行う。	<input type="checkbox"/>
第14回	発表会(プレゼンテーション)Bグループ	Bグループのプレゼンテーションを行う。	<input type="checkbox"/>
第15回	まとめとグループ内発表	個人レポートを作成する(グループの教材を使った実践プランを自分で作る)。	<input type="checkbox"/>

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)

事前学習として、次回の授業を理解するために、毎回指示するテーマや課題を予め調べておく(2時間程度)。事後学習として、授業で扱ったテーマや課題について関連資料を参照しながら復習する(2時間程度)。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

研究成果の発表は、感想交流を通してフィードバックし、全体で共有する機会を持つ。

■授業の到達目標と評価基準 (Course goals)		
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	調査、実践研究を通して課題を改善できる力を身につける。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	小学校教員・幼稚園教員・保育士になるための表現力、知識、能力を身につけることができる。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	各自、卒業研究のテーマを仮説的に設定できる。

■成績評価 (Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			60%	40%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents) 作成した教材やプレゼンテーションの内容から、表現力・思考力・判断力が身についたかを評価する。				

■テキスト (Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1	授業の中で、適宜紹介する。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書 (references books)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1	池田修『新版 教師になるということ』学陽書房, 2013年	
2	長瀬拓也『新版 若い教師のための読書術』学陽書房, 2013年	
3	長瀬拓也『2020年度版 教師になるには』一ツ橋書店, 2018年	
4	諸富祥彦『教師の資質 できる教師とダメ教師は何が違うのか?』朝日新書, 2013年	
5	鹿嶋真弓『教師という生き方』イースト新書Q, 2017年	